

# GR Yaris 1st Edition RZ "High performance"

## 走りに恋した週末、1台の“恋人”と生きる

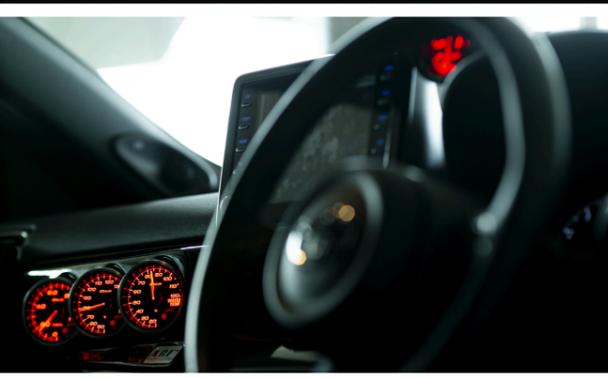
— 浜田の兄貴さん × GR Yaris

### — Profile

クルマ歴も人生経験も豊富な、頼れる兄貴肌が存在。

日常は仕事に真摯に向き合いながら、週末は愛車GRヤリスと過ごす“最高の時間”を何よりも楽しみにしている。

こだわりと情熱を持ちながらも、気さくで人懐っこい性格が、クルマ仲間の輪を自然と広げている。



**走る喜びを体感する週末**

GRヤリスに乗る最大の魅力、それはやはり、走り。  
ターボエンジンの加速感、4WDの安定感、そして剛性感のあるボディ……。  
浜田の兄貴さんは、「ただ走るだけで、これだけ楽しいなんて」と笑顔を見せる。  
カスタムのこだわりは、Defi製の3連メーター。  
赤く光るインジケーターが、戦闘モードのスイッチを入れてくれる。  
「自分の方に向いているレイアウトがまた最高。視認性も高いし、雰囲気も抜群です」

最初にGRヤリスを知ったのは、カー雑誌の誌面でした。「1,600ccで450万円!？」と、思わず声が出たという浜田さん。  
当初はその価格に驚きつつも、どこか気になる存在として心に残っていました。  
その印象を一変させたのが、年明けに訪れた東京オートサロン。そこで出会ったのが、限定仕様の「1st EDITION」でした。  
「なんだこれ、カッコいいじゃん!」と、心の中で火が灯りました。  
その後、ちょうど現車が展示されていたGR Garage 松山を訪れました。  
担当の高村さんの説明がまたうまくて、「スペックのすごさだけでなく、トヨタが、本気で造った車なんだって気持ち伝わってきたんだよね」。  
購入に迷っていたその時、ふと亡き奥様の声が聞こえた気がしたそうです。  
「あなた、いい車に出会ったじゃない。買ったら?」と背中を押してくれたような気がして、迷いはなくなりました。  
そうして始まったGRヤリスとの関係は、単なる「所有」ではありません。  
「週末しか乗れないけど、そのぶん特別。だから、恋人、みたいなんですよ。ハンドルを握るたび、ドアを開けるたび、心がときめく。これはまさに、走る喜びに、恋をした。男の物語です」

**クルマがつなぐ人との縁**

GRヤリスに乗り始めてからというもの、周囲の景色も変わってきた。「自然と、クルマ好きの仲間が増えたんですよ。話が合うし、情報交換も面白い」  
その拠点となっているのが、GR Garage 松山。  
定期的に訪れるのは、スタッフや他のオーナーたちとクルマ談議に花を咲かせている。  
情熱を共有できる場所がある——それも、GRヤリスがくれた、贈りもの、のひとつだ。



**EDITOR'S Note**  
編集後記

「週末しか会えない恋人みたくてさ」——その言葉が、この取材のすべてを物語っていた。  
クルマを、モノ、ではなく、存在、として大切にしている浜田の兄貴さん。  
走りを通じて、仲間と繋がり、自身自身の時間を豊かにしていく姿は、まさに大人のカーライフの理想形だと感じた。

**快適性という新しい扉へ**

これまでは、走行性能を優先したカスタムを中心に行ってきたが、今後は「快適性」にも目を向ける予定。  
「サーキットとかじゃなく、あくまで公道。だから、走れる日常、ってテーマも悪くないなって」  
純正シートの乗り心地や、静粛性を向上させるパーツなど、まだ見ぬ、快適なGRヤリスの姿が、少しずつ見えてきている。  
**これからGRヤリスを検討する人へ**  
最後に、これからこのクルマを手にとろうとしている人へ、こんなメッセージを残してくれた。  
「このGRヤリスは、トヨタが本気で造った、魂の一台。たぶん、内燃機関でこれほどのスポーツカーは、もう出てこないかもしれない。気になってるなら、迷ってる時間があったいな。今が、乗るべきタイミング。だと思えますよ」



走りの本能を呼び覚ます、唯一無二の存在。  
“彼女”に会うたび、心が躍る。

### OWNER'S STYLE CHECK

- エアロ：GR PARTS
- ホイール：RAYS TE37
- サスペンション：APEXi
- キャタライザー：APEXi
- シート：RECARO RS6

